

地域でつながるケアファーム推進事業

社会福祉法人 大町市社会福祉協議会
〒398-0002 長野県大町市大町 1129 番地

助成事業の概要

コロナ禍でB型事業所(すずらん)の作業が激減、対策として農福連携に着手し利用者の方たちが精神的に落ち着くなどケアファーム的效果が見られ、また収穫野菜販売を通して地域農家、中学校、信州大学などつながり可能性と視野を広げる中、より多くの関係者や市民参加を目指し、現地体験会とZOOM学習会、ディスカッション&シンポジウムを計12回企画、15回実施。

■体験会 : 5/27 小谷村田植体験、6/5 水辺農園捕植体験、6/26 水辺農園田植体験、7/10 Ferm36 葡萄畑草払体験(大町中学校支援学級合同)、9/25 水辺農園はぜかけ体験、10/20 Ferm36 葡萄畑手除梗体験(大町中学校支援学級合同)、12/7 柿酢づくり体験(福祉施設合同)、計7回開催。

■ZOOM 講座 : 5/23、6/20、8/21 クランベリー栽培講座(北海道総合研究機構)、5/17 農福事例講座(NPO 縁活)、11/1 シンポジウム事前講座、1/29 農福講座(Ferm36)、計6回開催

■ディスカッション&シンポジウム : 12/4 ユニバーサル自然農&エグモント留学報告会、2/17 農福シンポジウム(報告会)、計2回開催

■振り返りの会 : 3/30

事業の成果

■計画回数12回よりも多く15回を実施することができた。

■のべ参加者数は、体験会7回で約200名、

ZOOM 学習会6回で約60名、シンポジウム2回で約100名(ZOOM参加者含む)と、当初の予想より多くの方々に参加いただけた。

■体験会では、地域協力農家の方々と中学校支援学級、福祉施設などの理解を得て、年間を通したおおよその作業工程が把握でき、継続の協力体制と流れができた。

■ZOOM 学習会では、全国でも栽培が珍しいクランベリー栽培のノウハウと苗木をいただき、また遠方での好事例を伺い、農福の可能性を知ることができた。

■シンポジウムでは、ユニバーサル自然農体験とデンマークへの障がい者との留学体験に衝撃を受けたが、来年への手応えとつながりをつくることができた。また、報告会で農福アドバイザーの地方事例などのお話から、様々な可能性を知ることができた。

■地域マルシェ出店ができたことで、地域の方々に認知してもらうことができた。

■体験会を通して、利用者の方々により変化が起こった

・やる気がなかったのに元気が出てくる方
・「楽しい」「次はいつですか」「次は何をしますか」とやる気が溢れてくる方
・「しんどい」という言葉が素直に言えるようになった方
・学生や地域の方々との作業や差し入れをを喜ぶ方
・「みんなとやれて楽しい」「ありがとうございます」と律儀に話せるようになった方

■体験会、講座、シンポジウムを通して数々の変化や気づきがあった

・農体験を通して人と人との「見えない壁」のよう

な偏見が自然となくなっていく・農体験の中で「障がいの有無」は関係なく、単純に「できる、できない」で事が進んでいく・天候など自然現象に左右されコントロールできないことにぶつかるたび、頭だけで考える悩みは無意味とわかる・暑さ寒さなど体感しながら身体感覚や体力が身につく・協力者関係者との信頼関係が構築され、結果でなく過程に価値があると実感できるようになった。

■ 成果の広報・公表

■体験会やシンポジウムの告知を含め、事業と活動について地元新聞「大系タイムス」に写真入りで大きく5回も掲載いただくことができた。

(マチスコ紹介、麦ストロー紹介、マルシェ出品紹介、シンポジウム告知、報告会告知)

■大町市農協広報誌に、カラー 2 ページで農福商品「マチスコ」紹介を掲載いただいた。

■シンポジウム前にオリジナルでチラシを作成、市役所、関係者協力者、養護学校などに配布とメール配信をしたが、慣れないながらもZOOM 配信を実施したことによって、本事業を遠方からのZOOM 参加者にも知っていただくことができた。

■事業実施と広報を通して、本事業と農福連携活動を地域のより多くの方々に認知いただけた。

■体験会での飯盒炊さんには、思いがけず大町市長に参加いただくことができた。

■マルシェへの出品も地域の方々との交流と、認知度を高める効果が感じられた。

■ 今後の展開

■「農」はたべものをつくること、「福」はみんなで生きること。たべものをつくって、みんなで生きて、つながることを大切に、結果より過程にある価値を共有しながら「引き出す形」で持続可能な地域づくりを進めていきたい。

■大町中学校との唐辛子栽培「マチスコプロジェクト」では、大町を元気にする特産品マチスコとして、ふるさと納税品を目指したい。

■岳陽高等学校と破棄する唐辛子を使った「虫除け唐辛子液」開発で、持続可能な農業推進とアップサイクルを目指したい。

■地域や北アルプス国際芸術祭、ヒンメリアーティスト、パン屋さんとのコラボで、ライ麦の「ストロー」「ヒンメリ」「ライ麦パン」を循環資源活用モデルにしていきたい。

■北アルプスオーガニックプロジェクト、北アルプス農業農村支援センターなどとのコラボで米と麦づくり、飯盒炊飯、お餅つきなど実施したい。

■B 型事業所maica、麴アドバイザーの方たちと「柿酢ワークショップ」を継続、元気循環をしていきたい。

■森や自然やケアファームでのユニバーサルキャンプを通して「第三プレイス」のモデルをつくっていきたい。